

幼児が両親や保育者に対して

困っていること

西 本 美 節



問題

幼児の成長に伴って、いろいろな場合に行なわれるおとなの意図的な教育や、無意識的・習慣的な言動が、幼児に影響を与え、その性格を形づくっていきます。したがって、おとなの不用意な言動が幼児の心を傷つけたり、おとなに対する不安や不信から、人の顔色を見て行動をとるような好ましくない方向へ幼児を追いやってしまうようなこともあります。

おとなの中には、幼児の問題行動はだいたいその子の生来の性格によるものと考え、なおさなければならぬと思っっているものが多いようです。けれども、幼児の問題行動によっておとなが悩まされるだけではなくて、幼児もおとなの言動によって困らされたり、負担を感じたりすることがあるはずで、幼児はその悩み

をことばでぶちまけたり、表現したりできません。そこで、かれらはいろいろな行動によってこれを表現しようとします。

ところで、幼児はいつたい両親や保育者に対して、どんなことで困らされているのでしょうか。この点を調べてみようと思いましたが。

方法

幼児に個々に面接し、直接質問することにしましたが、その前に幼児と面接者との間に十分なラポートを得るよう心がけました。幼児が警戒心を示している間は質問を行わず、いっしょに遊んでいる間に、自発的に話し出すような機会をとらえました。したがって、答を強要したり、暗示的な質問をしたりせず、ごく自然のままの姿をとらせるように注意しました。そして、幼児

の応答や言語を記録するに当たっては、方言や幼児語もそのまま書きしるしておくようにしました。幼児に対する質問項目は次のとおりです。(各項目の「」の中は特にはっきりいう)

- 1 あなたの名まえを覚えてちょうだい。
- 2 ○○ちゃんは「いつ」生まれたの。
- 3 ○○ちゃんはいま「いくつ」なの。
- 4 なんと「いう」ようちえん(「ほいくしよ」)に行っていますか。
- 5 ○○ちゃんがいまなにか「困っていること」がありますか。
- 6 どんなことがいちばん「困る」の。
- 7 どんなことがいちばん「イヤ」なの。
- 8 Aお父さんのことで「困る」のはどんなことですか。
Bお母さんのことで「困る」のはどんなことですか。
C先生のことで「困る」のはどんなことですか。
D友だちのことで「困る」のはどんなことですか。
- 9 A○○ちゃんをいちばんよくしかるのは「だれ」ですか。
B二ばんめは「だれ」ですか。
C三ばんめは「だれ」ですか。
- 10 A○○ちゃんがいちばん「こわい」と思う「人」は「だれ」ですか。
B二ばんめの「人」は「だれ」ですか。

第一表

地域別	住宅街	郊外住宅	団地	農村	商店街	工場地	下町その他	合計
実数	408	33	38	39	75	16	105	764
百分率	53.5	4.3	4.9	11.6	9.8	2.1	13.7	100(%)

第二表

年齢	3 歳		4 歳		5 歳		6 歳		小 計		合計
	未就園	就 園	未就園	就 園	未就園	就 園	未就園	就 園	未就園	就 園	
男	63	17	55	34	16	82	8	81	142	214	356
女	66	15	55	57	23	97	9	86	153	255	408
計	1 6 1		2 0 1		2 1 8		1 8 4		295	469	764

C 三ばんめの「人」は「だれ」ですか。

11 ○○ちゃんが「まいちばん「こうだつたらいいな」と思うことはどんなことですか。

その他の調査項目

A 幼児の居住地域

B 幼児の親の職業

対象児は、大阪・奈良・京都・兵庫・和歌

山の各府県で、戸外遊

びをしている三歳〜六

歳の男児・女児を無選

択に選びました。その

合計は七六四名です。

対象児を地域別に分け

たものが第一表で、年

齢別・性別・就園未就

園未就

第三表

職業別	高等専門	知的中等	技術的中等	半熟練	無職	その他	合計
職業内容	医師 教師 牧師 神主 住職 画家 裁判官 実業家など	商業 工業 官公使 会社員 銀行員 事務員など	建築設計 写真映写技術 運転手 仕立業など	家具装飾 表具師 大工・左官 理容師・浴場 クリーニング 工具・船具 レストラン ハリ灸・農業など			
実数	69	486	34	87	2	86	764
百分率	9.0	63.6	4.4	11.4	0.3	11.3	100%

園別に分けたものが
第二表です。

また、父親の職業
別に分けると第三表
のとおりになりま
す。

結果

一、質問5に対し
て「困っていること
がある」と答えた幼
児は全体の三六・六
%、「ない」および
「わからない」と答
えたものは三二・九
%で、残りの三〇・
五%は答えなかった
り、「イヤなことな
らある」と答えまし
た。この場合、男・
女の性差はあまり見

られません。三歳児の三〇・四%は答えませんでした。五、六歳児では、答えない子は各年齢とも、また男女児ともに二、三名に過ぎませんでした。

以上の結果から、「困ることがある」とはつきり答えた幼児は、対象児全体の約三分の一ですが、「イヤなことがある」と答えたものや、「わからない」と答えていながら、「………するから困る」とか、「………するからイヤだ」などと答えたものもあり、結局、多くの幼児は困ることや、イヤだと思ふことがあるように、はつきり「ない」と答えたものと、無回答のものを合わせても、全体の五分の一に落ちませんでした。したがって、たいていの幼児は何か困ったり、イヤだと思ったりしているのだといえましょう。

二、「困っていること」と「イヤなこと」の内容を分析してみると、ほとんど同じような事柄があげられており、これらは幼児の言語表現の違いによるもので、大差ないものと考えられるので、幼児が「困っていること」についてだけ考察することにしませんでした。

三、幼児が「困っていること」としてあげた内容を、次のとおり七項目に分類してみました。

1 人物——両親・きょうだい・家族・友だち・他人・不特定人物（おとな・こじきなど）など

2 物質——備品玩具(ピアノ・プールなど)・事故(自動車・火事など)・環境(道が狭いなど)など

3 自己の身体——身体的な欠陥(病気がち・下痢・けが・あせも・汗かき・デブ・ヤセ・夜尿など)など

4 自己の心——精神的負担(さびしい・こわいなど)など

5 動植物——動物・植物など

6 自然現象——雨・雷・台風など

7 保育——歌・踊り・勉強(幼稚園・保育所内での)など

以上の分類法によって、幼児の応答を年齢別・性別に分けてみると第四表のとおりです。

第四表に見られるように、どの年齢別・性別においても、最も多かったのが「人物」で、その次が「物質」、第三は三、四歳児では「自己の身体」や「自己の心」、五、六歳児では「保育」についてでした。第一位にあげられた「人物」の種類を、幼児の年齢別・性別に検討したものが第五表です。

三〜五歳児は男・女児とも「父・母」が一位で、六歳男児は「不特定」、女児は「きょうだい」が最も多くなっていました。

以上のように、幼児が困る対象となる人物は、幼児の年齢が低いほど、身近にいる「両親」や「家族」が多く、年齢が大きくなると、家族よりも「不特定のおとな」が多くなっています。これは、成長に伴って両親以外のおとなと接する機会が多くなること

第四表

分類別	3歳		4歳		5歳		6歳		平均	
	男児 (%)	女児 (%)	男児 (%)	女児 (%)	男児 (%)	女児 (%)	男児 (%)	女児 (%)	男児 (%)	女児 (%)
人物	65.0	75.0	64.3	48.9	35.5	61.3	50.0	62.5	52.1	59.5
物質	20.0	18.8	21.4	28.9	22.6	20.9	26.3	15.0	23.1	21.5
自己の身体	5.0	6.2	0	6.7	9.7	4.8	7.9	7.5	5.9	6.1
自己の心	0	0	7.1	0	0	0	2.6	0	2.6	0
動植物	0	0	3.6	6.7	9.7	1.6	0	5.0	3.4	3.7
自然現象	5.0	0	0	2.2	6.5	3.2	0	2.5	2.6	2.5
保育	5.0	0	3.6	6.7	16.1	8.1	13.2	7.5	10.3	6.7

第五表

順位	男 児				女 児			
	3歳	4歳	5歳	6歳	3歳	4歳	5歳	6歳
1	父・母 46.2(%)	父・母 38.9(%)	父・母 36.4(%)	不特定 36.8(%)	父・母 41.7(%)	父・母 41.4(%)	父・母 36.8(%)	きょうだい 48.0(%)
2	きょうだい 30.8	友だち 22.2	きょうだい 27.3	父・母 31.6	友だち 33.3	不特定 27.3	きょうだい 31.6	不特定 20.0
3	不特定 15.4	きょうだい 16.7	友だち 18.2	きょうだい 10.5	きょうだい 16.7	きょうだい 18.2	友だち 21.1	父・母 16.0

や、一般のおとなが、三、四歳児のいたずらよりも、五、六歳児のいたずらを注意することが多いためではないかと思われまます。

また、「物質」についての内容は、「ピアノがあるのでやられるから困る」「ピアノを習いたいのに買ってくれない」とか、最近の交通事故の頻発や遊び場の不足を反映して、「ダンブカーに困る」「ボール投げをさせてもらえない」「外に出してくれない」「道が狭いし、車の往来が激しい」などがあげられています。

「自己の身体」については、調査期間が六月から十月であったためか、「汗が出る」「あせもが多い」「かゆい」などの表現が多く、「デブ」とか「ノロマ」なども気にしており、六歳ごろになれば夜尿を苦にしていました。

「自己の心」については、ひとり寝の習慣がついていない四歳児が寝るのをこわがったり、六歳児がさびしがっていました。これらは、男児に見られ、女児には見られませんでした。

「動植物」では、「犬やねこや小鳥などを飼えない」ことがあげられていましたが、これは両親の意向だけでなく、住宅事情も関係しているようです。公団住宅やアパートでは、生き物の飼育が許されないので、虫や草花の飼育・栽培を幼児にさせて、かれらの欲求を満たすように心がけたいものです。

「自然現象」では、調査期間とも関連がありますが、「台風」や

「雷」をあげていました。

「保育」については、「幼稚園や保育所に行かなくてはならない」と登園自体に負担を感じているものがありました。就園・未就園の状況(第二表参照)を見ると、五、六歳児に就園児が多いので、登園を苦にする幼児が五歳児に多く見られたのは当然ですが、女児では六歳になるとその数が減るにもかかわらず、男児においては六歳になっても変わりませんでした。登園するのを苦しめている理由は、「数や字を書かされる」「勉強や宿題がある」などが多く、男児では「むりやりに踊りや歌を保育者の教えるとおりになるまで何度もさせられる」ということを理由にあげていました。幼児にとって楽しいはずのお絵かきや歌も、強制的な保育者の態度によって、非常に迷惑なものとなるでしょう。

四、前記の人物に対して、具体的に幼児が「困る内容」を、次の六項目に分類しました。

- 1 身体的攻撃——たたかれる・罰せられるなど、直接幼児の身体に危害を加えるもの
- 2 自我の侵害——幼児が何かしたいと思っていることを、抑制・禁止するもの

- 3 社交の侵害——遊んでくれない・おこられる・放っておかれるなど、放任・叱責するもの

- 4 道徳的侵害——約束を破る・じゃまをするなど

第六表

内容 順位	身体的攻撃 (%)	自我の侵害 (%)	社交の侵害 (%)	道徳的侵害 (%)	各自の行動 (%)	所有の侵害 (%)
1	友だち 15.2	保育者 22.8	母親 76.2	父親 6.9	父親 8.6	友だち 17.8
2	母親 11.3	母親 10.4	父親 70.9	友だち 0.7	保育者 3.0	0
3	父親 10.2	父親 3.3	保育者 67.3	母親 0.6	母親 1.5	0

第七表

対象	性別 年齢 内容	男 児				女 児			
		3歳	4歳	5歳	6歳	3歳	4歳	5歳	6歳
父親	しかられる おこられる	40.9(%)	65.0(%)	60.0(%)	53.6(%)	66.7(%)	94.7(%)	56.0(%)	54.2(%)
	遊んでくれない	22.7	20.0	15.0	10.7	13.3	5.3	12.0	25.0
	放っておくなど	35.4	15.0	25.0	35.7	20.0	0	32.0	20.8
母親	しかられる おこられる	60.9(%)	73.5(%)	60.0(%)	59.4(%)	73.1(%)	72.7(%)	64.1(%)	53.8(%)
	遊んでくれない	0	5.9	3.3	3.1	7.7	0	2.6	0
	放っておくなど	39.1	20.6	36.7	37.5	19.2	27.3	33.3	46.2
保育者	しかられる おこられる	—(%)	—(%)	81.8(%)	76.5(%)	—(%)	—(%)	100(%)	91.7(%)
	遊んでくれない	—	—	0	9.1	—	—	0	8.3
	放っておくなど	—	—	18.2	14.4	—	—	0	0
友だち	おこられる	10.0(%)	0(%)	3.7(%)	0(%)	0(%)	0(%)	0(%)	2.8(%)
	遊んでくれない	0	43.8	22.2	20.8	55.6	25.0	15.6	27.8
	いじわるされる	60.0	25.0	14.8	4.2	44.4	55.0	25.0	22.2
	からかい・悪口 いいつけ口など	30.0	31.2	59.3	75.0	0	20.0	59.4	47.2

5 各自の行動——飲酒・パチンコ・よく休むなど、個人的な行動

6 所有の侵害——遊具を取られる・こわされるなど

以上の分類によって、困る点の内容別には、多いものから順に第三位まであげると、第六表のようになります。

この表に見られるように、「社交の侵害」が、母親・父親・保育者のいずれの場合にも、最も多くあげられました。この「社交の侵害」の内容を、対象別・幼児の年齢別・性別に示したものが第七表です。

この表に見られるように、両親では「しかられる」「おこられる」「放っておく」が、幼児の年齢・性別に関係なく大半を占め、保育者では「しかられる」「おこられる」が、男女とも五、六歳児になると大半を占めていました。また、友だちでは「いじわるされる」「遊んでくれない」が三、四歳児にみられ、「からかい・悪口・告げ口」が五、六歳児に多くなっていました。その内容を具体的に示すと、父親では、「話を聞いてくれない

い」「夜の帰りがおそい」「放っておく」「大声でヤカマシイ・ウルサイ・アッチへ行けなどとどなる」「ママをしかったりけんかする」とか、「おもちゃを買いすぎる」などでした。母親では、「おこる」「にらむ」「放っておく」「返事をしてくれない」「ヒステリーを起こす」「自分以外のきょうだいばかりをかわいがる」「パパをおこったりけんかをする」などで、保育者については「しかる」「おこる」「話を聞いてくれない」「自分にわからないことをいう」などがあげられていました。

保育者が幼児に対して、何か必要な注意を与えていても、幼児自身がその内容をはっきり理解できず納得できないので、保育者が勝手におこっているのだ、どうしたらよいのだろうか、幼児が困っている場合があるようです。友だちでは「いじわる」や「けんか」「からかい」「告げ口」などがあげられ、また、父親・母親・保育者・友だちのすべてについて「遊んでくれない」と不満を述べていました。

「自我の侵害」では、保育者や母親の場合に多く、父親ではわずかしか見られませんでした。保育者については「無理に歌・遊戯・折り紙・勉強をさせられる」「急がせる」などが、母親では「昼寝をさせられる」「遊びに出してくれない」「ピアノ・オルガン・勉強をさせられる」などの干渉や、「がまんさせられる」などが不満の原因になっており、父親では「用事ばかり言いつけ

る」「テレビを見せてくれない」など、父親に仕えたり譲ったりしなければならぬ立場を不満に思っているようです。

「身体的攻撃」は友だちと両親に、「所有の侵害」は友だちだけに見られました。「身体的攻撃」について、友だちでは「ひっかく」「たたく」「石・砂・ツバをかける」などが、母親では「たたく」「つねる」「押し入れに入れる」などネチネチした行動や、「むりに食べさせる」「むりにふるに入れる」など、食事や清潔についてのむり強いに困っているようです。

父親では「タバコやライターであつあつする」とか「ひっぱたく」「倉へ放り込む」「ハダカにする」などの折かんや、「ヒゲでこする」とか「なめにくる」などの溺愛に困っています。保育者の場合は、やや母親に似て「たたく」とか「暗いところへ入れる」「おべんとうをむりに食べさす」などがあげられていました。「所有の侵害」については、友だちどうしの間で「おもちゃや、三輪車・自転車をとる」とか「こわしにくる」「よこす」などがあげられていました。

「各自の行動」について、父親では「タバコをすう」「酒を飲む」「パチンコをする」とか、「寝てばかりいて起きない」「どこでも平気でオナラをする」など、だらしないうこと・不作法なことがあげられ、保育者では「園へ来るのがおそい」「よく園を休む」など、遅刻や欠席を不満に思ったり、「何でもお母さんにしゃべ

る」など、保育者を信頼して話したことを母親に告げ口されることを迷惑がっていました。また、母親では「ねぼろをしたり、パチンコをして食事の用意がおそくなって困る」と訴えています。「道徳的侵害」については、父親では「約束を破る」「遊びのじゃまをする」などがあげられ、安易にみやげ物やどこかへ連れて行くことなどの約束をしておきながら、平気でこれを破ることを不満に思い、友だちでは「うそをいう」など、幼児特有の現実と想像の世界の未分化から生ずることもでていました。また、母親では「……をしてあげるなどといって、やらない」と、約束を守らないことをあげていました。保育者による道徳的侵害は一件もありませんでした。

五、「しかられる」「おこられる」という表現をする幼児が多いので、しかられることと恐怖心とがどのくらい結びつきをもつかを調べてみました。それが、質問の9と10です。

幼児があげた「よくしかる人」と「こわい人」とを、一位から三位まで多い順序に並べてみたのが第八表と第九表です。

幼児があげたしかる人には、両親のほか、祖父・父・兄弟・おじおば・よそのおじさんおばさんがありました。何といつてももしかり役は、どの家庭でも母親で、次が父親、それから祖母の順になっているようです。しかし「こわい人」では、父親がしかる割合が少ないのに、いちばんこわい人になっていました。しかること

第八表

順位	一ばんよくしかる人	二ばん目によくしかる人	三ばん目によくしかる人
1位 %	母親 61.1(%)	父親 41.2(%)	父親 24.3(%)
2位 %	父親 24.5	母親 29.5	祖母 15.9
3位 %	保育者・祖母 3.6	祖母 9.0	兄か姉 12.4

第九表

順位	一ばんこわい人	二ばん目にごわい人	三ばん目にごわい人
1位 %	父親 30.8(%)	母親 27.9(%)	母親 22.1(%)
2位 %	母親 24.4	父親 18.8	祖母 12.1
3位 %	おばけ・怪獣 8.6	おばけ・怪獣 14.6	兄 10.1

の多い母親が、やはりこわい人として二位にあげられていました。これは当然でしょう。しかり役に出てきた祖父と姉が、こわい人物の中にはほとんど出て来ずに、こわい人物は祖母と兄になっていました。そのほか、巡査・医者・どろぼう・こじき・子とり・ひげのおじさん・白い服のおばさんなどといっしょに、神さまや鬼・怪獣・おばけなどがこわい人の中に入れていました。この傾向は、特に年少児ほど強いようです。

六、困る点の解決法として、幼児の希望をかれら自身に聞いて

第十表

内容	性別		男 児				女 児				平 均		全 体
	年齢		3歳	4歳	5歳	6歳	3歳	4歳	5歳	6歳	男児	女児	
物 質			29.2%	45.2%	33.3%	30.7%	38.6%	41.1%	39.7%	30.3%	34.6%	37.4%	36.0%
活 動・経 験			29.2	37.8	51.8	56.5	34.1	51.7	38.5	49.9	43.8	43.6	43.7
人 物			17.1	3.8	3.8	3.2	22.7	5.4	10.3	12.1	7.0	12.6	9.8
自 己の成 長			2.4	0	1.9	0	2.3	1.8	5.1	0	1.1	2.3	1.7
想 像			22.0	9.4	7.4	8.1	2.3	0	0	1.5	11.7	1.0	6.3
否 定 的 応 答			0	3.8	1.9	1.6	0	0	6.4	6.1	1.8	3.1	2.5

みた結果をまとめると、第十表のようになりまし

た。

質問11に対する応答の内容を次のように分類しました。

- 1 物質——お金・おもちゃ・運動具・食べ物・住居などがほしい
- 2 活動・経験——行く・乗る・遊ぶ・見る・運転・飼育など、それぞれの目的によって……したいなど
- 3 人物——父親・母親・きょうだい・友達に対して……してほしいなど
- 4 自己の成長——大きくになりたいなど、自分の成長を願うなど

5 想像——空想的な○○になりたいなど

6 否定的応答——……がなければよいなど

第十表に見られるように、幼児が最も多く希望しているのは、活動・経験で、物質についての希望は二位に、数は約一〇%足らずですが、人物についての希望が三位になっていました。また少数ですが、否定的応答が見られたのも、無視できないことでしょう。

幼児の希望する活動・経験としては、「外でボール投げや石けりをしたい」とか、「遊園地・動物園・夜店・デパート・海など、どこでもいいから行きたい」「飛行機・船にのりたい」「ハイヤー・ダンブカー・パトカーを運転したい」など、戸外での思い切った活動や、「テレビもマンガも好きなのを思うぞんぶん見たい」というような経験があげられていました。

「物質」についての希望では「お金がほしい」といっても十円から百万円などと現実的な要求と空想とが混同したり、おもちゃについても、エレキギターやピアノ・人形・プラモデルから、お菓子のあき箱や、虫とりあみなどいろいろで、運動具では自転車やプールなどもあり、家とか庭とかお倉を欲しがっているものもありました。これはやはり現代の住宅事情からくるものでしょう。また、お菓子・ケーキ・アイスクリーム・ジュース・アメ・プリンなど、食べ物についての幼児の夢は、昔も今もあまり変わりは

ないようです。

「人物」についての希望では、父親に対しても・夜もいてほしい」母親に対しては「オンフ・ダッコ、いっしょに寝てほしい」など身体的接触を求めています。また「笑っていてほしい」ともいっています。

「お父さんとお母さんがすぐけんかするからどうしたらいいかわからないので泣きたくなる」と、両親のけんかは幼児の心を傷つけるようです。きょうだいでは「兄・姉や赤ちゃんがほしい」といい、けんかをしてもらはりきょうだいしてほしいものようです。

大きくなりたいという「自己の成長」と共に、バットマン・バーマン・ウルトラキャプテン・ウルトラマン・サンダーバード・黄金バット・金太郎になりたいなど、超人間を「想像」するのはテレビの影響でしょう。また「野球の選手になりたい」と希望している幼児もありました。いずれも、力の強い人間に対するあこがれを示しているものです。

否定的応答としてあげられたものは、「勉強しなければならぬから幼稚園なんかなかったらいい」「おけいこをしなければならぬからピアノなんかなければいい」「赤ちゃんが泣くとママがすぐ私のせいにしたり、ぼくを放っておいて赤ちゃんばかりかわいいたい」、『お兄ちゃんだから、お姉さんだからがまん

しなさい』というから赤ちゃんなんかかったらいい」などがあります。中には「お母さんをいじめる・お酒を飲んだら乱暴するからお父さんなんかいらぬい」などと、横暴な父親に対する嫌悪感をはっきりと述べる幼児がいて考えさせられました。

結語

幼児が両親や保育者に対して困っていることをよく考えてみると、おとなたちの専制的・支配的な態度や、放任・偏愛の態度によるものや、あるいはおとな自身の身勝手さによることが多いのではないかと思われまます。また、おとなが「幼児のためによい」と思っていた事柄についても、幼児が「なぜこんな態度や方法を用いるか」を十分理解したかどうかもしかめないで行なっていないでしょうか。幼児のことばの発達は十分ではないにしても、幼児は幼児なりにおとなの言動を見て判断し、それを成長の糧にしています。幼くてもやはり一人の人格として認め、甘やかすのでなく、幼児の立場をよく理解し、またおとなの意向も幼児の納得がいくように伝えなければなりません。幼児の信頼を失わぬようにして、かれらに安定した満足感と、成長への希望を持たせるようにするのは、われわれおとなの責任ではないでしょうか。